

平成 21 年度後期  
工学資源学部における学生による授業評価  
報告書

秋田大学大学院工学資源学研究科評価委員会

## ま え が き

教育の内容や授業の進め方に関して学生の率直な意見を問う一つの方法に、「学生による授業評価」があります。本学部における「学生による授業評価」は平成14年度に「授業アンケート」として開始され、既に8年を経過し、各学期末の授業終了後に実施される「学生による授業評価」は、日常的な業務となっております。また、教員相互による授業参観も実施されるようになり、学部専門科目の公開制は高まってきたものと思います。

工学資源学部では多様な入試形態を取り入れ、個性ある学生を多数受け入れていることもあり、学生による授業評価を継続的に実施することにより、学生の授業に対する意識や動向が正確に把握でき、教員の授業に対する反省と改善にも繋がると確信しています。

一方、工学資源学研究科では平成24年4月を目標に、大学院博士後期課程と博士前期課程の組織や入学定員等の見直しの検討を進めております。このような改組を実施する場合、組織変更の程度によっては大学院設置審による教員審査の実施も予想されます。過去においては大学院鉱山学研究科博士課程設置（平成6年4月）と大学院工学資源学研究科設置（平成14年4月）時に、大学院設置審による各教員の審査が行われております。当時在籍されていた方には設置審受審の経験をお持ちの先生もおられると思いますが、個人調書に基づき、授業科目を担当可能か、研究指導を担当するに十分な研究実績等を有しているかが審査されます。個人調書の記載事項には教育に関する実績や、学生や教員による授業評価の結果を記載する欄も設けられています。これは、今までの授業評価結果とは異なる利用法に当たりますので、対応を研究科評価委員会と教員評価委員会に検討を付託しております。

また、今年は大学院学生による授業評価も実施される予定です。大学院学生が授業をどの様に感じているか、その結果を期待しております。

最後に、本報告書の取り纏めにご尽力された、研究科評価委員会、教育改善委員会、研究科事務部の関係各位に対して、厚く御礼申し上げます。

平成22年7月

工学資源学研究科長 西 田 眞



## I はじめに

本報告書は、平成 21 年度後期に教育改善委員会が実施した学生による授業評価をまとめたものである。この授業評価実施に関する意義・目的は以下のとおりである。

### 意義・目的

教育における授業の果たす役割は大きく、授業の教育的効果を高める方策が早急に求められている。このためには学生の要望に対応できる仕組み、学生の主体的な学習意欲を喚起できる仕組み、教える側の意欲を変えていくことのできる仕組みなどが必要である。

「学生による授業評価」はこれらの仕組みを実現する有効な手段の一つであり、学部全体の取り組みとして実施する。「学生による授業評価」の結果は整理・分析して報告書としてまとめて公開し、授業改善が大学人としての責務であることの共通認識を得ることを目指す。

### 1. 実施主体

工学資源学部評価委員会からの付託を受けて、教育改善委員会が計画・実施する。実施に当たり、関係教員は全面的に協力する。

### 2. 実施期間

平成 21 年度後期授業において、最終試験前の平成 22 年 2 月中旬までに実施する。

### 3. 調査対象授業科目

工学資源学部で後期に開講されている全専門授業科目（講義・演習）を対象とする。

### 4. 調査項目

別添の調査用紙による。

### 5. 調査方法

記名方式で行う。

### 6. 調査の実施

授業を担当する教員が授業中に調査用紙を配布し、回収箱で回収して学務担当に提出する。

### 7. 集計方法（入力）

全調査項目について処理機器で一括処理し、6 段階+無回答の計 7 段階で単純集計する。結果は棒グラフで表示し、%を添える。また、各項目について概要を整理する。

### 8. 集計結果の取扱い（集計と返却）

集計結果は、教育改善と学部評価委員会が認めた目的以外には使用しない。回答用紙は今後の授業改善の資料として担当教員に返却し、個々の授業の向上の助けとする。

### 9. 報告書・公表

調査結果については教育改善委員会で検討・分析し、報告書を評価委員会に提出する。報告書の様式は今後の継続調査並びに費用を考慮し、可能な限り簡素化する。内容の公表は工学資源学部評価委員会の判断にゆだねる。

## II 授業評価実施科目、評価項目及び回答数

### II. 1 授業評価を実施した授業科目

授業評価実施科目総数は 197、回答総件数は 9240 である。以下に学科別の一覧及びその詳細を示す。

工学資源学部授業評価実施状況一覧

所属学科	実施教員数(名)	合計科目数	回答件数
地球資源学科	17	29	830
環境応用化学科	17	29	1499
生命化学科	6	7	172
材料工学科	15	24	1236
情報工学科	13	26	1154
機械工学科	18	25	1546
電気電子工学科	19	28	1726
土木環境工学科	11	24	929
学科共通	4	5	148
合計	120	197	9240

#### 地球資源学科：29 科目(計 830)

地球システム工学セミナー(37)、外国文献講読(24)、鉱物学(22)、金属鉱床学(19)、外国文献講読 II(22)、地球物理学 I(24)、応用地球物理学 III(13)、地史学(23)、エネルギー地質学 II(24)、岩石学 II(22)、岩石学概論(57)、応用地球物理学 I(23)、外国文献講読 IV(24)、防災地学(29)、基礎地球科学(地質学概論)(51)、資源予測工学(16)、システム・リスク分析(28)、固体力学(地殻開発工学)(37)、土質力学(34)、地下水理工学(34)、地熱開発工学(28)、石油・天然ガス開発工学(27)、岩盤工学(24)、通気・空調工学(26)、鉱山システム工学(26)、資源開発学(35)、流体力学(33)、地質図学(22)、鉱物学概論(46)

#### 環境応用化学科：29 科目(計 1499)

環境物質工学実験 IV (52)、外国文献講読(43)、環境応用化学概論(57)、環境物質化学実験 I(50)、環境物質化学実験 II(54)、有機化学 I(62)、有機合成化学(60)、資源処理工学(61)、素材開発工学演習(46)、移動現象論 I(70)、化学工学演習 I(51)、化学工学量論(65)、反応工学演習(15)、高分子工学(10)、基礎高分子化学(36)、有機資源化学(52)、触媒化学(62)、有機反応化学演習(23)、有機反応化学(35)、分離工学(45)、流体力学序論(60)、理科教育法 I・II(13)、物質情報処理学(99)、物理化学 I(92)、生物工学基礎(54)、無機材料化学 K(60)、無機材料化学 N(84)、化学工学演習 II(26)、機器分析学(62)

#### 生命化学科：7 科目(計 172)

生命化学概論(31)、環境分子生物学(11)、生化学 II(29)、生命有機化学 II(28)、分析化学 II(29)、構造有機化学(19)、分析化学演習(25)

#### 材料工学科：24 科目(計 1236)

材料工学演習(57)、材料工学実験 I(59)、材料工学実験 III(55)、外国文献講読(60)、創造工房実習(49)、卒業課題研究(50)、材料物理学 I(65)、固体構造化学(28)、材料化学(75)、結晶強度学(50)、物理知能材料学(10)、量子論概論(30)、機能表面工学(48)、セラミック材料学(62)、材料化学プロセス学(53)、材料物理化学(53)、エネルギー変換材料学(77)、材料組織学(52)、地域産業論(60)、材料プロセス学(34)、弾性体力学(61)、材料評価学(40)、

電磁気学(55), 構造解析学(53)

**情報工学科** : 26 科目(計 1154)

情報工学実験 I (53), 計算機システム概論 (71), 論理設計(46), ものづくり基礎実践(21), 情報プロジェクトゼミ(16), パターン認識学(44), ヒューマンインターフェース学(48), 視聴覚情報工学(37), プログラミング言語(46), コンピュータ実習 II (51), データ構造とアルゴリズム(51), 情報処理学(45), システムプログラム(ソフトウェア基礎論)(72), 応用物理学概論(124), 基礎電子回路(44), 情報電磁気学(38), 応用数学 II K(9), 応用数理学 II (38), 応用数学 II C(14), オブジェクト指向言語入門(47), 情報ネットワーク学(49), 産業情報学(50), 情報セキュリティ基礎(50), 応用数学 II (20), 数値シミュレーション学(36), 応用数学 II (34)

**機械工学科** : 25 科目(計 1546)

計算機援用工学(計算力学 I )(58), 材料力学(材料力学 D)(78), ナノテクノロジー(機械波動力学)(32), 熱力学 II (54), 応用数学 II (84), 機械工学概論 II (52), 物質環境移動論(43), 機械計測工学(センサ工学)(72), 流れ学(121), 流体機器学(熱流体変換工学)(20), 熱エネルギー変換工学(エネルギー変換機器)(61), ものづくりの倫理学(74), デジタルコントロール(29), 機械強度学(機械材料工学 II )(41), 機械加工プロセス学(機械製作学)(85), 設計製図 I (88), スポーツ工学(67), ものづくり基礎実践(67), プロジェクトゼミ(16), 機械システムダイナミクス(68), ものづくりの確率統計・品質管理(60), 振動制御工学(43), 福祉工学(67), センサ・アクチュエータ工学(アクチュエータ工学)(86), メカニズム(80),

**電気電子工学科** : 28 科目(計 1726)

電気電子工学実験 I (77), 電気電子工学実験 III (87), 計算機プログラミング I (86), 高電圧工学(89), 電気材料学(89), シミュレーション基礎論(58), 電気磁気学 III (44), 電気磁気学 I (40), 量子力学(27), 電子回路学 I (46), 電気磁気学 I (39), 電子物性工学 II (82), 光エレクトロニクス(45), 電気回路学 IV (回路解析学)(49), 電子工学概論(33), 応用情報計測工学(61), 信号解析学(106), 電気回路学 II (42), 情報通信工学 II (85), 電気回路学 IV (回路解析学)(45), 電子制御システム工学(29), 電力システム工学(60), 電気磁気学 III (36), 電気回路学 II (38), 電気製図(83), 応用数学 I (80), システム工学概論(64), 計算機システム学(106)

**土木環境工学科** : 24 科目(計 929)

高齢者・障害者の交通計画(45), 福祉のまちづくり(48), 交通施設工学演習(9), 福祉防災・水環境工学(11), 国土計画と地域開発(54), 社会資本整備の歴史(55), 交通システム計画(85), プロジェクト評価(52), 合成構造工学(8), 建設材料学 II (49), 構造情報学(43), 鋼構造工学演習(19), 建設構造工学設計製図(19), 環境構造工学(30), 環境構造工学演習(21), 環境デザイン(48), 構造力学 I (52), 構造設計学 II (20), 水理学 II (66), 港湾工学(11), 水理学演習(50), 生活環境工学(32), 土質工学(50), 土質工学演習(52)。

**学科共通** : 5 科目(計 148)

入門英語(6), 総合演習(32), 教育原理(28), TOEIC 演習(52), テクニカルコミュニケーション(30)。

## Ⅱ. 2 実施した授業評価の項目

### 工学資源学部学生授業評価調査書

この授業は、授業改善及び教育的効果を高めることを目的として実施します。成績に影響することはありません。よろしくご協力願います。

科目コード :  
授業科目名 (必修・選択) :  
担当教員名 :  
評価者 : 学籍番号, 学科, 年次, 氏名

以下の質問については、次のような基準で答えてください。なお、回答は該当する基準番号に対応する○を黒く(●)ぬりつぶしてください。

5. そう思う (はい)。 4. どちらかといえばそう思う。 3. どちらともいえない。  
2. どちらかといえばそう思わない。 1. そう思わない (いいえ)。 0. わからない、  
または該当しない。

回答日：平成 年 月 日

#### 質問項目

1. 授業の目的や達成目標及び評価基準が明確に示されていましたか。
2. 授業の内容は、シラバスと一致していましたか。
3. 授業はよく準備されていましたか。
4. 説明は明確でわかりやすいものでしたか。
5. 授業内容は興味深いものでしたか。
6. 授業の内容は、理解できる分量でしたか。
7. 授業の進む速さは適切でしたか。
8. 学習の課題、問題演習等の指示が適切に行われましたか。
9. 授業に対する教員の熱意が感じられましたか。
10. あなたは授業の内容を理解し、目標を達成できたと思いましたか。
11. この授業に対する学習時間(授業時間を除く)は授業1回あたり、どのくらいですか。

\*11の質問は下記の選択肢から選んでください。

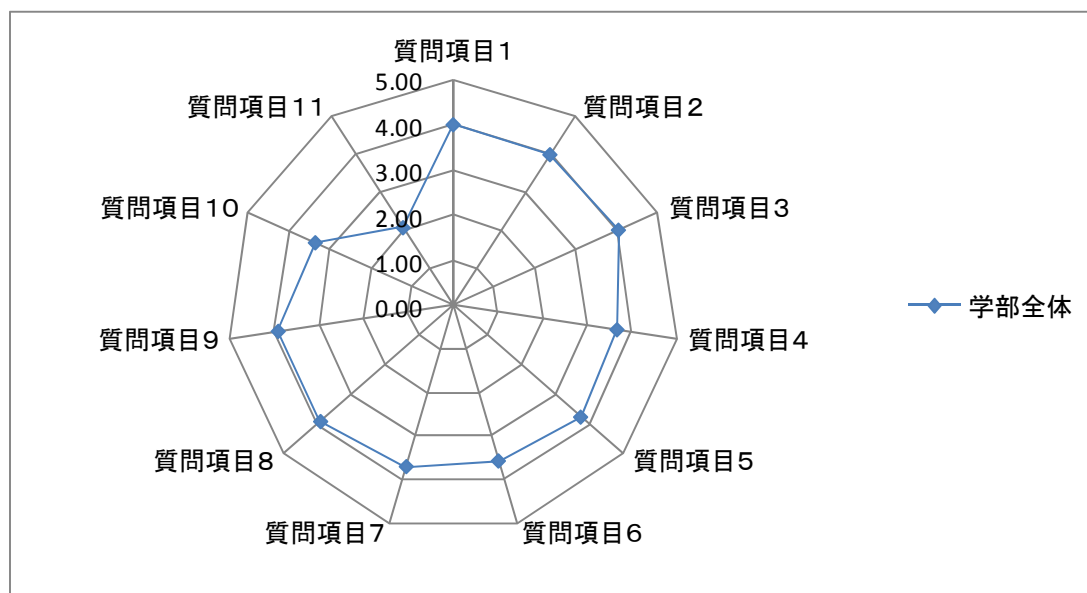
5. 3時間以上 4. 2～3時間 3. 1～2時間 2. 30分～1時間 1. 30分未満  
0. ほとんどない

- ①この授業を受講して良かったと思う点がありましたら書いてください。  
②この授業及び学習環境について何か要望がありましたら書いてください。

### Ⅲ 授業評価結果の概要

#### Ⅲ. 1 学部授業評価集計表

学部全体における質問項目 1～質問項目 10 についての授業評価集計結果を次に示す。



学部全体では、質問項目 11 の平均点 2.06 を除くすべての項目において 3 以上の平均点をとっている。最も高いのは質問項目 3 であり、平均点は 4.04 となっている。

#### Ⅲ. 2 質問についての回答概要

各質問についての概要を以下に示す。

質問項目 1. 授業の目的や達成目標及び評価基準が明確に示されていましたか。

「そう思う (はい)」が 29.6%、「どちらかといえばそう思う」が 46.0%で肯定的回答は 75.6%となり、平成 19 年度後期 66.8%、平成 20 年度後期 70.7%に比べ着実に増加している。これは教員の FD 活動を通じてのシラバスに関する取り組みの成果と、JABEE における評価基準、評価方法の明確化が反映されているものと評価できる。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.9%)、「そう思わない (いいえ)」(0.6%) を合わせた否定的回答が 2.4%で、現行のスタイルで授業評価が開始された平成 15 年度後期 24.4%から大きく減少している。また、平成 19 年度後期 3.6%、平成 20 年度後期 3.0%と比べても、否定的回答は減少しており、教員の努力の成果と思われる。なお、平均点は 4.01 である。



質問項目 2. 授業の内容は、シラバスと一致していましたか。

「そう思う（はい）」が 31.6%、「どちらかといえばそう思う」が 43.4%で肯定的回答は 75.0%となり、平成 19 年度後期 66.3%、平成 20 年度後期 70.7%に比べ着実に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（1.8%）と「そう思わない（いいえ）」（0.5%）を合わせた否定的回答は 2.3%であり、平成 19 年度後期 3.4%、平成 20 年度後期 2.9%に比べ減少しており、この点でも改善がみられる。なお、平均点は 3.98 である。

質問項目 3. 授業はよく準備されていましたか。

「そう思う（はい）」が 35.5%、「どちらかといえばそう思う」が 39.7%で肯定的回答は 75.3%となっている。平成 19 年度後期 65.2%、平成 20 年度後期 70.2%に比べ、着実に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（3.6%）と「そう思わない（いいえ）」（1.0%）を合わせた否定的回答は 4.6%であり、平成 19 年度後期 6.4%、平成 20 年度後期 5.0%に比べ、さらに減少している。これらから、教員の授業に対する努力が継続されていると評価できる。平均点は 4.04 で全質問項目中最も高い値である。

質問項目 4. 説明は明確でわかりやすいものでしたか。

「そう思う（はい）」が 23.6%、「どちらかといえばそう思う」が 38.1%で肯定的回答は 61.7%と、平成 19 年度前期の 52.7%、平成 20 年度後期の 57.4%に比べ着実に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（8.3%）と「そう思わない（いいえ）」（3.4%）を合わせた否定的回答は 11.7%であり、平成 19 年度後期 14.2%、平成 20 年度後期 12.7%に比べ、減少している。肯定的回答の増加、否定的回答の減少は、FD 活動を通じた具体的な教育内容の改善努力が実を結びつつあるものと評価されるが、肯定的回答がさらに増えるよう、継続的努力が今後とも求められる。なお、平均点は 3.68 である。

質問項目 5. 授業内容は興味深いものでしたか。

「そう思う（はい）」が 25.0%、「どちらかといえばそう思う」が 37.9%で肯定的回答は 62.9%と、平成 19 年度前期の 54.3%、平成 20 年度後期の 58.4%に比べ、改善が図られている。さらに、現行のスタイルで授業評価が開始された平成 15 年度後期の 59.4%も上回る結果となった。一方、「どちらかといえばそう思わない」（6.6%）、「そう思わない（いいえ）」（2.5%）など否定的回答は 9.1%で、これは平成 15 年度後期の 37.3%から大幅に減少している。また、平成 19 年度後期の 11.7%、平成 20 年度後期の 10.6%に比べても、着実に減少しており、学生に学習意欲をわかせるべく、教員の努力のあとが伺える。なお、平均点は 3.75 である。

質問項目 6. 授業の内容は、理解できる分量でしたか。

「そう思う（はい）」が 18.5%、「どちらかといえばそう思う」が 37.9%で肯定的回答は 56.4%となり、平成 19 年度後期の 46.8%、平成 20 年度後期の 51.4%と比べて、着実に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.8%）と「そう思わない（いいえ）」（2.9%）を合わせた否定的回答は 12.7%となり、平成 19 年度後期の 15.0%、平成 20 年度後期の 13.8%と比べて、減少している。こうした結果から教員の授業内容に関する工夫・改善が進みつつあることがわかるが、肯定的回答の割合はいまだ 50%中ほどにとどまっている。ミニテストや演習を導入するなど、学生の理解度を適宜把握し、これに合わせ柔軟かつ、具体的な教育内容のさらなる工夫・改善が求められる。なお、平均点は 3.57 である。

質問項目 7. 授業の進む速さは適切でしたか。

「そう思う（はい）」が 22.4%、「どちらかといえばそう思う」が 39.1%で肯定的回答は 61.5%となり、平成 19 年度後期の 53.2%、平成 20 年度後期の 55.8%に比べ増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（7.0%）と「そう思わない（いいえ）」（2.3%）を合わせた否定的回答は 9.3%であり、平成 19 年度後期の 11.8%、平成 20 年度後期の 11.4%に比べ減少している。学生の能力に相当の幅が存在することや否定的回答が少数であることを考慮すれば良い結果と判断できる。質問項目 6 の結果と合わせ、日常の授業の中で学生の反応や理解度を把握しながら授業が進める作風が着実に広がりつつあることが伺えるが、さらなる改善の努力が求められる。なお、平均点は 3.70 である。

質問項目 8. 学習の課題、問題演習等の指示が適切に行われましたか。

「そう思う（はい）」31.3%、「どちらかといえばそう思う」が 38.0%で肯定的回答は 69.3%となり、平成 19 年度後期の 60.3%、平成 20 年度後期の 64.7%と比べて、着実に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.2%）と「そう思わない（いいえ）」（1.6%）を合わせた否定的回答は 6.8%であり、この回答は平成 19 年度後期の 9.1%、平成 20 年度後期の 7.9%に比べ減少している。学習課題等の指示は比較的適切に行われていると考えられる。なお、平均点は 3.90 である。

質問項目 9. 授業に対する教員の熱意が感じられましたか。

「そう思う（はい）」が 30.1%、「どちらかといえばそう思う」が 41.1%で肯定的回答は 71.1%となり、平成 19 年度後期の 62.0%、平成 20 年度後期の 67.0%と比べて、着実

に増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(3.3%)と「そう思わない(いいえ)」(1.5%)を合わせた否定的回答は4.8%となり、平成19年度後期の6.6%、平成20年度後期の5.6%と減少している。直近の3年間の結果を見る限り改善が見られる。しかし、現行のスタイルで授業評価が開始された平成15年度後期では肯定的な回答は76.1%にも達しており、これに比べると5ポイント低い。今回の結果でも「どちらとも言えない」との回答が23.6%あり、これを肯定的な回答に引き上げていく努力が必要であると考えられる。なお、平均点は3.93である。

質問項目10. あなたは授業の内容を理解し、目標を達成できたと思えましたか。

「そう思う(はい)」が12.2%、「どちらかといえばそう思う」が34.6%で肯定的回答は46.8%となり、平成19年度後期の37.6%、平成20年度後期の43.7%に比べ増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.9%)と「そう思わない(いいえ)」(3.3%)を合わせた否定的回答は13.3%となり、こちらは平成19年度後期の17.1%、平成20年度後期の14.9%に比べ減少している。しかし、平均点は3.37で、質問項目11を除いて依然最低であり、学生の授業の理解度を深めるべく、教員のさらなる努力が期待される。

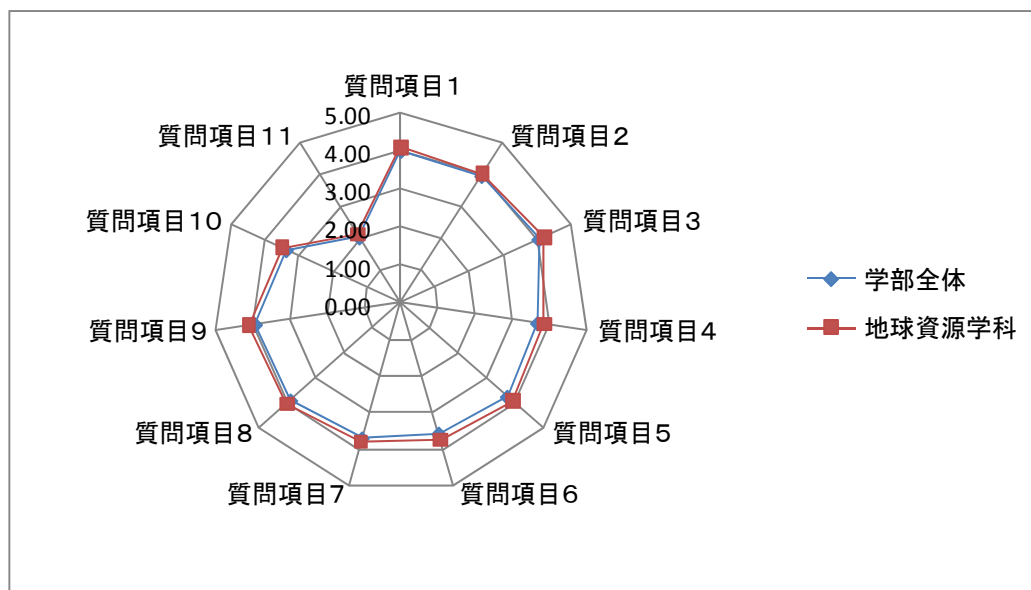
質問項目11. この授業に対する学習時間(授業時間を除く)は授業1回あたり、どのくらいですか。

「2~3時間」は前回の8.9%から9.4%へ、「3時間以上」は6.2%から6.4%へとわずかに増加する傾向が見られる。これは、課題を出すなどして授業以外の学習時間をとらせる教員側の努力の一定の成果と考えられる。一方、「ほとんどない」は前回の13.3%から15.8%へ増加し、「1時間未満」(「30分~1時間」と「30分未満」の合計)もまた45.2%と、前回の46.7%に引き続き高い割合を占めている。今後は、特に学習時間の少ない学生に対し、予習・復習を誘導する教員側の工夫・努力が必要である。それにより、質問項目10で指摘された問題点である授業の理解度に関する平均点の向上につながると考えられる。なお、平均点は2.06である。

#### IV 教員所属学科単位での授業評価結果

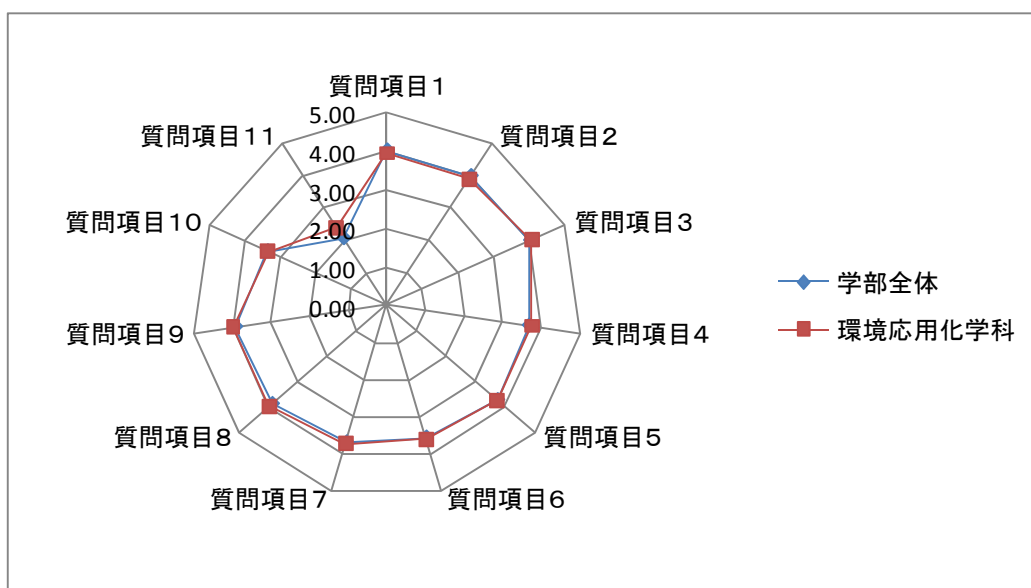
以下に、学科ごとの評価結果と学部平均点に関し、質問項目 1～質問項目 11 についてレーダーグラフを用いて示す。さらに、それをもとに学部平均点より良かった点と問題点などを吟味し、それぞれの学科の特徴を明らかにする。

##### <地球資源学科：回答数 830>



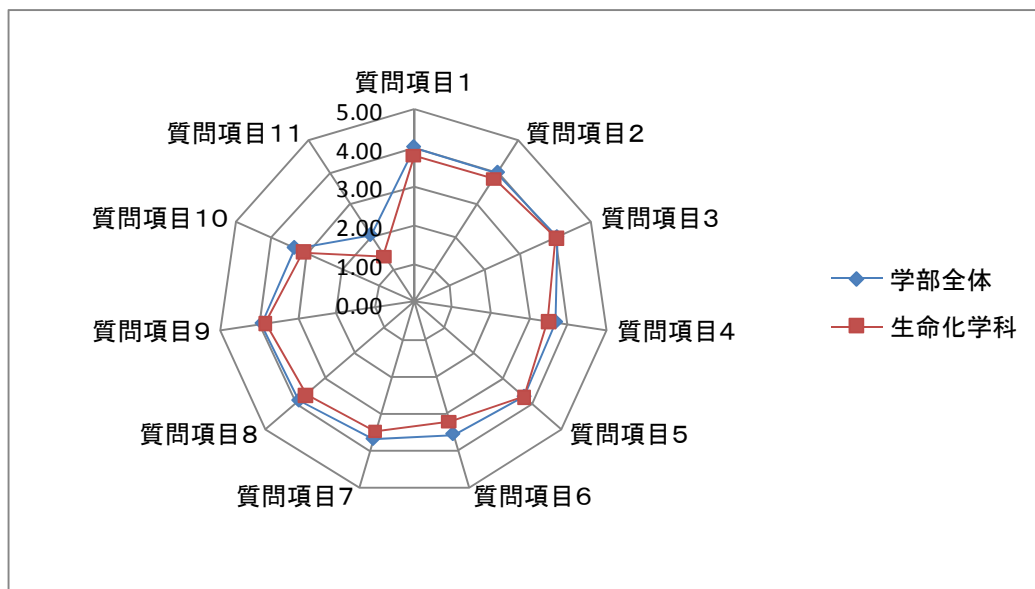
地球資源学科はすべての質問項目において学部平均を若干上回っている。また、前回に比べ、すべての質問項目において向上が見られる。

##### <環境応用化学科：回答数 1499>



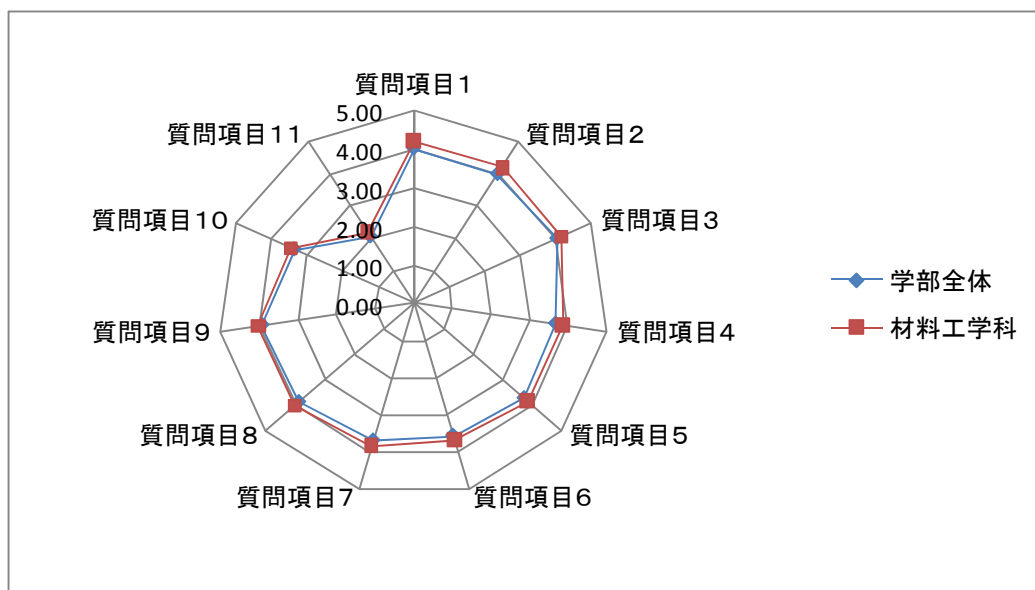
環境応用化学科は質問項目 11 が学部平均に比べ高い値となっているが、他の質問項目については学部平均と類似している。また、多くの質問項目で前回と比べ、若干の向上が見られる。

<生命化学科：回答数 172>



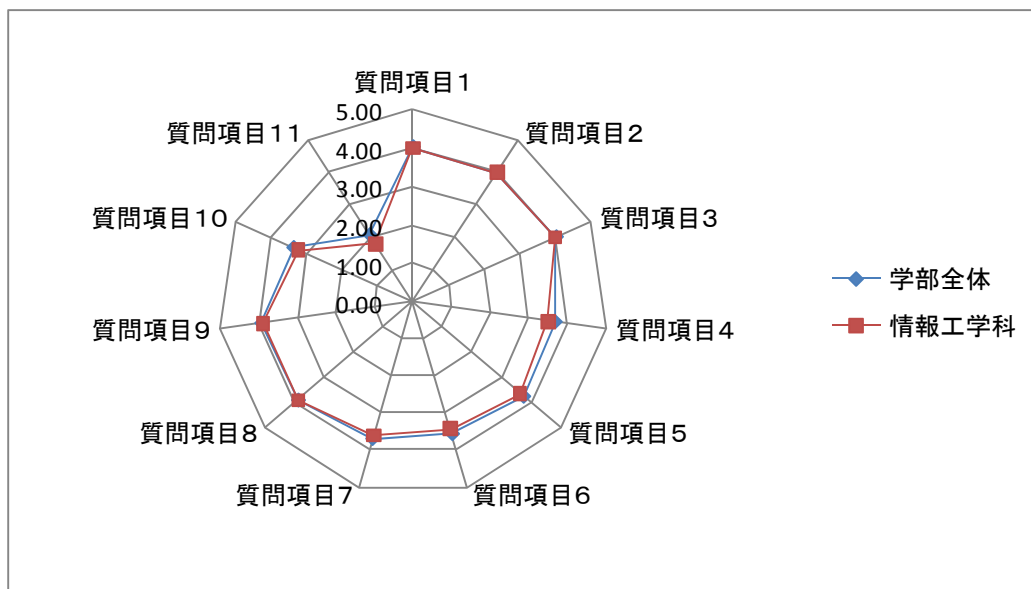
生命化学科は多くの質問項目で学部平均に比べ低い値となっているが、これは学科が発足して間もないこと、対象回答数が他に比べ極端に少ないことなどもその原因になっていると考えられる。しかし、質問項目 11 が学部平均からかなり下回るなど、学生の学習時間の増加を誘導する教員側の一層の努力が期待される。

<材料工学科：回答数 1236>



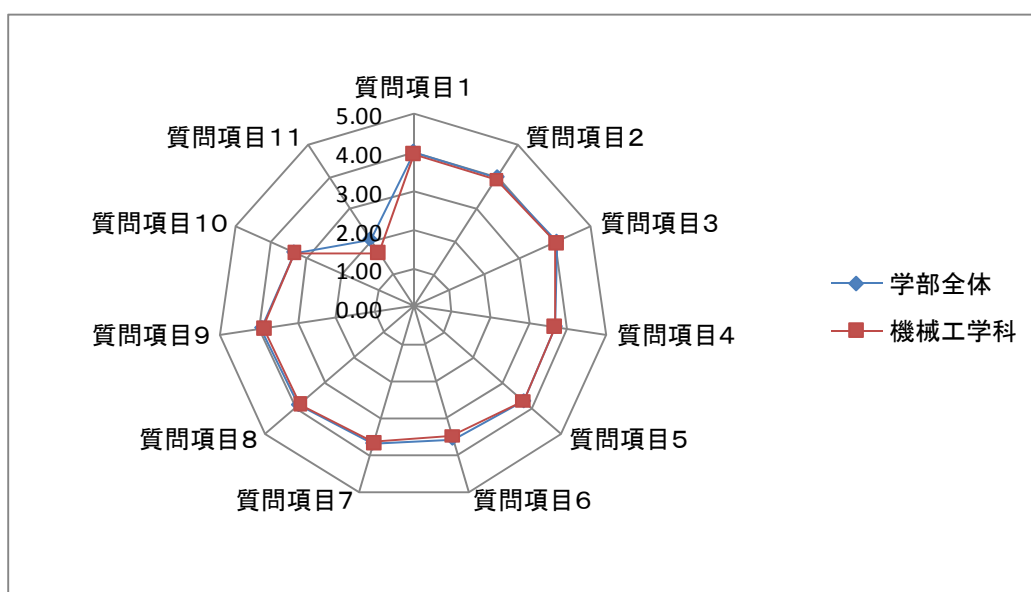
材料工学科はすべての質問項目において学部平均よりも高い値となっている。また、前回に比べほとんどの質問項目において向上が見られる。

<情報工学科：回答数 1154>



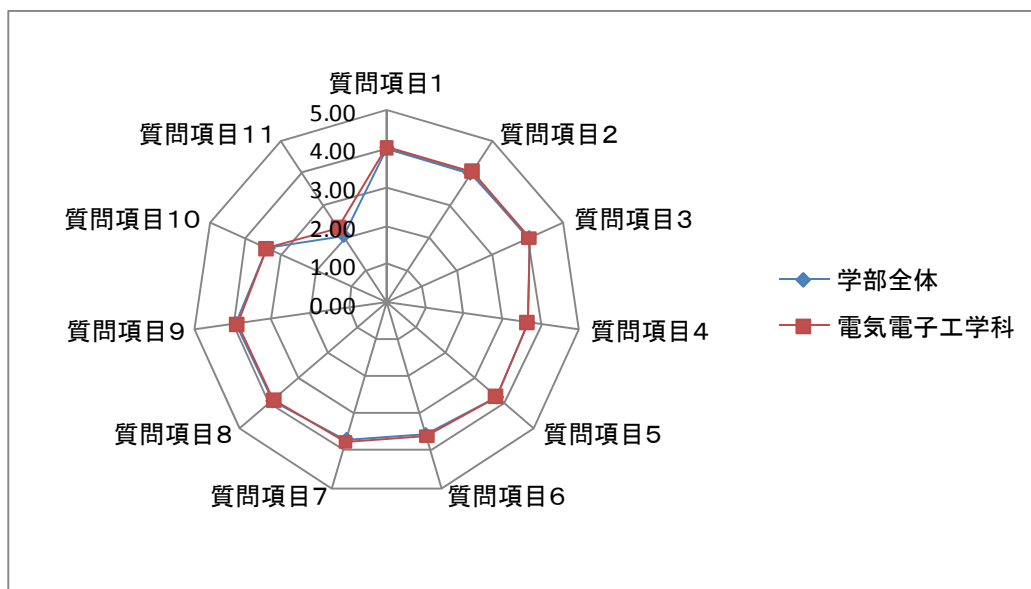
情報工学科はすべての質問項目において学部平均とほぼ等しいかやや低い。また、前回に比べても大きな変化はない。

<機械工学科：回答数 1546>



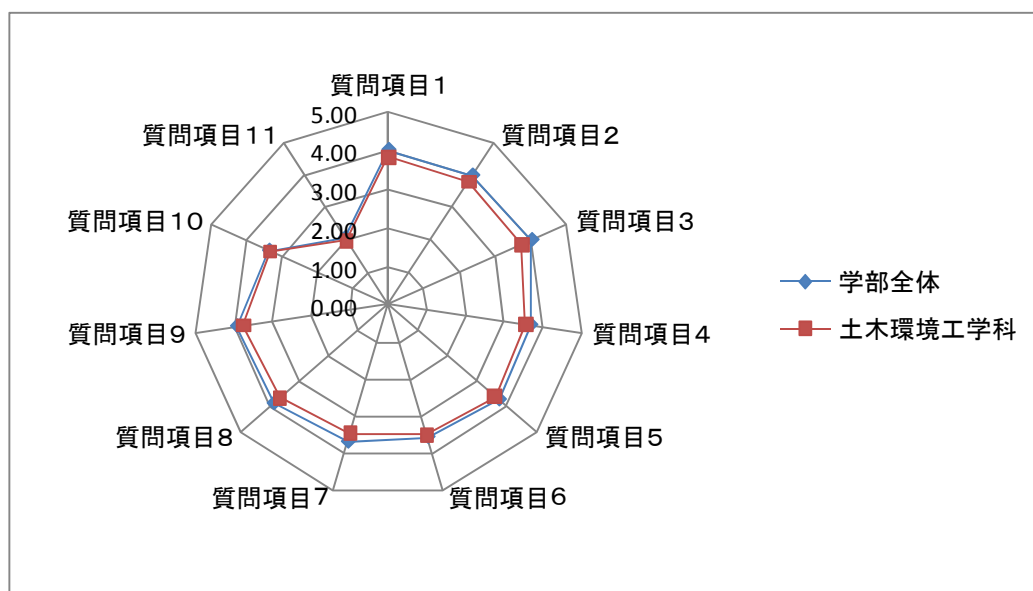
機械工学科はほぼすべての項目において学部平均とほぼ等しいか、やや低くなっている。また、質問項目 11 が前回の調査と同様、学部平均からかなり下回っており、今後の改善が期待される。

<電気電子工学科：回答数 1726>



電気電子工学科はほとんどの質問項目において学部平均とほぼ等しいが、前回に比べ向上が見られる。また、質問項目 11 については前回同様、学部平均に比べ高い値となっている。

<土木環境工学科：回答数 929>



土木環境工学科はほぼすべての質問項目において学部平均と等しいか、やや低い値となっている。また、前回と比べてもほとんど変化はないが、質問項目 11 の点数の減少が見られ、今後の改善が期待される。

## V むすび

学生による授業評価は平成 14 年度より実施されており，現在のスタイルでの実施も平成 15 年度後期から始まり，7 年目となる。そのため，これらのデータの比較だけからでも，学生の授業に対する意識や動向，さらには教員の授業に対する姿勢などが少しずつ明確になってきたように思われる。この間 J A B E E 受審と認定が進み，また全学，学部，学科の各レベルで F D が広範に取り組み，授業内容の改善努力が広がりつつある。実際，ほぼすべての質問項目に関して肯定的回答が着実に増加する一方，否定的回答は減少しており，こうした努力が実を結びつつあるように見られる。

本報告書が教員各位の今後の教育活動の参考になれば幸いである。

---



## あ と が き

この報告書は、平成 21 年度後期の学生授業評価調査結果をまとめ、分析したものです。教員の皆様におかれましては、担当科目の評価結果ならびに学部・学科全体の動向を併せてご覧いただき、ご自身の授業改善に役立てていただきたいと思います。

学生による授業評価は、開講から単位認定に至る授業の一連のプロセスの中で、教員が行う作業の 1 つとして受け入れられ、実施されてきております。授業評価の実施の検討に入った際には、アンケートの実施と内容についていろいろな議論がありましたが、教員は自発的に教育改善を行うという大学の良き伝統を維持するためには、種々の視点からの評価あるいは意見の存在を知り、独善に陥ることを廃する必要があるということが共通認識として教員間にありましたので、開始後すぐに定着しました。教員の教育改善に対する意識の高さは、学生による授業評価とは異なる視点で行われている同僚評価や FD 活動が確実に実施されていることから伺えます。

このような学生あるいは同僚による授業評価は、本研究科同様に、全国の大学で定着してきていますので、最新の大学設置審の教員個人調書に教員評価の内容を記載する欄が設けられるまでになりました。これまでは教員の自発的な教育改善という観点からの評価の実施でしたが、設置審の評価項目になっているということを踏まえて、この種の評価の実施内容について再度議論することが必要になってきたのではないかと感じています。

この度の学生授業評価調査の企画、実施並びに分析は、教育改善委員会によって行われました。ご尽力いただきました関係教職員の皆様にお礼申し上げますとともに、調査の実施にご協力いただいた教職員並びに学生諸君に感謝いたします。

平成 22 年 7 月  
工学資源学研究科評価委員会  
委員長 泰松 斉

### 平成 22 年度教育改善委員会名簿

地球資源学専攻	筒 井 智 樹
環境物質工学専攻	布 田 潔
生命化学科	天 辰 禎 晃
材料工学専攻	佐 藤 芳 幸
情報工学専攻	玉 本 英 夫 (委員長)
〃	橋 本 仁
機械工学専攻	奥 山 栄 樹
電気電子工学専攻	田 島 克 文
土木環境工学専攻	浜 岡 秀 勝
専攻共通	西 山 亨

### 平成 22 年度学務担当名簿

主 査	工 藤 奈緒美
主 任	今 野 道 子
グループ員	佐々木 絵 莉
グループ員	小 鹿 徳 之
グループ員	佐 藤 紀 子